

## [001] 九州大学極低温実験室だより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/11016>

---

出版情報：九州大学極低温実験室だより. 1, 2000-10. 九州大学理学部極低温実験室  
バージョン：  
権利関係：

## 九州大学物性研究センターのごあいさつ

九州大学理学部極低温実験室は、昭和37年3月に東北大、東大、阪大に次いで全国4番目に設立されて以来、九州大学における低温物性・超低温現象等の低温物理学および低温工学研究の中核として貢献してきました。

さらに、物質科学、生命科学の急速な発展に伴って、理学、工学等物理科学の研究分野に限らず、化学、生物学、医学、薬学、農学等を含む自然科学の広い分野の研究者への寒剤供給の重要性が年々高まり、今や本極低温実験室の利用は全学に拡大し、現在では年間延べ7000人を越える研究者に液体ヘリウムと液体窒素を供給しています。その結果得られた研究業績は液体ヘリウムに関するものだけでも年間100報を越えています。こうして、理学部付属の極低温実験室は、実質的には全学共同の研究支援施設として機能してきました。

このようにますます増え続ける極低温寒剤の需要に応え、安定した供給を確保し、名実ともに全学のための研究支援施設として発展するため、全学共同利用の極低温科学センターの設置を期して準備委員会により全学的な検討が進められてきました。

一方、我が国の物性研究の体制強化と研究・教育基盤の整備を図るために、中核となるべき施設を全国的な視野で拠点として整備し、ネットワークを構築しようとする計画の中で、理学部極低温実験室は極限物性研究の九州地区拠点の中核施設に位置づけられることになりました。このような全国的な動きに呼応して、九州大学では、本実験室を従来から要求されている寒剤供給の機能を包含しつつ九州地区の物性研究の拠点施設として位置づけた新しいセンターの設置を目指して上記の設置準備委員会を改組し、新たに「九州大学物性研究センター設置準備委員会」を発足させました。

このような機に、本極低温実験室の現状を広く伝えるとともに、広い分野の研究者による活発な研究交流の場を提供する情報発信の役割を担うものとして「九州大学極低温実験室だより」が創刊されました。この冊子を通じて、関係の皆様方に本実験室の今後向かうべき姿をご理解いただき、九州大学物性研究センターの早期実現に向けて、温かい力強いご支援をお願い致します。

平成12年10月

九州大学大学院理学研究院長 伊藤 明夫